

学力向上に向けた取組 ～4つの学びの視点を大切にした指導～

府中市教育委員会では、第3次府中市学校教育プランで示した目指す人間像（「他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人」「社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」「自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人」）を踏まえ、これから時代を生きていく児童・生徒に特に身に付けてもらいたい資質・能力を明確にし、その育成に向けて各学校が創意工夫を生かして取り組む内容を「府中市立小・中学校の教育課程編成に向けたグランドデザイン」（以下、グランドデザインという。）として示しています。

「グランドデザイン」
は、こちらから



I 府中市が育成を目指す資質・能力

第3次府中市学校教育プランで示した目指す人間像を踏まえ、これから時代を生きていく児童・生徒に特に重視して育成を目指す資質・能力は次のとおりです。

府中市の義務教育9年間で特に重視して育成を図る資質・能力

課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力

2 学習場面で大切にする「4つの学び」

府中市が育成を目指す資質・能力の向上のために、「グランドデザイン」では、子供たちの学習場面で大切にする活動を**4つの学び**として示しました。各学校では、この**4つの学び**をそれぞれの教科の授業や、運動会・宿泊行事などの学校行事を含め、全ての教育活動で重視しています。教科等の学習により身に付けるべき資質・能力に加え、これから社会の中で生きていくために必要な資質・能力の育成につながると思っています。

◆ 発見すること

児童・生徒が、主体的に目標や課題を発見し、課題解決や自己実現に向けて見通しをもって、自主的・実践的に学ぶことができるようとする。



◆ 対話すること

児童・生徒が、多様な価値観を認め、考えを相互に伝え合い、合意形成を図ったり問題解決を図ったりできるようとする。



◆ 決定すること

児童・生徒が、課題解決や自己実現に向けて、集団や自己の状況を把握しながら調整し、方法・目的・結果等を決定できるようとする。



◆ 表現すること

児童・生徒が、よりよい自己・集団・社会の実現に向けて、言葉や行動で表現できるようとする。



3 「4つの学び」を授業で実践しています。

各学校では現在、「グランドデザイン」で示した**4つの学び**の視点を意識した授業を展開しています。日々の授業で、子供たちに**4つの学び**を意識させ、府中市の義務教育9年間で特に重視して育成を図る資質・能力の向上に努めています。授業の実践事例を紹介します。

中学校の実践事例

◆ 発見すること

【第1学年 理科 単元名:大地の変化(火山)】

形状の異なる火山から噴き出す溶岩の特徴について、生徒たちは、先生が事前に準備した紙粘土製の模擬火山を観察しながら、粘り気、流れる様子、色などについて、自ら発見したことをそれぞれ自分の言葉で整理をしました。また、それらの模擬火山の様子は、タブレットのカメラ機能を用いて黒板に投影しています。生徒たちは、手元の資料やタブレット端末などで調べたことと、実際に投影されている資料を比較しながら、それぞれが気付いたことをグループ内で意見交換することをとおして、さらに細かな違いを発見したり、その違いの理由について考えを深めたりすることにつながりました。



◆ 対話すること

【第3学年 理科 単元名:地球と宇宙(宇宙の中の地球)】

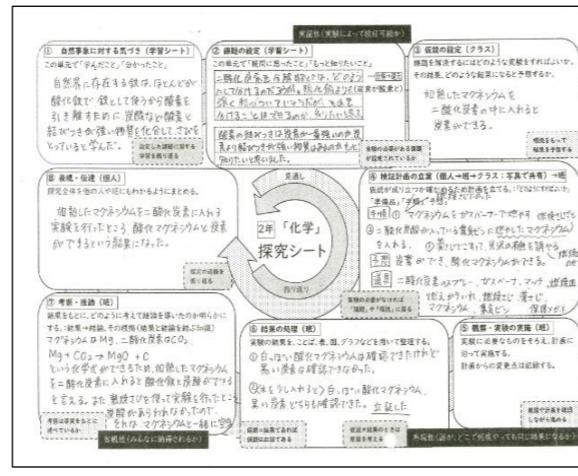
それぞれの天体がもつ特徴について理解を深める学習として、生徒たちは、「移住に適している星について考えよう」というテーマでグループとしての意見をまとめ、さらに、ポスターセッションの形式でお互いに発表し合う活動に取り組みました。様々な見解があるテーマに対して個人で意見をもち、グループでそれらを1つにまとめる学習過程となっています。生徒たちがそれぞれの星の特徴を比較することをとおして、天体についての特徴を再発見するなど、さらに理解を深めることができました。また、他者に自分の考えを説明する活動をとおして、一人一人がどんなことを大切にしているか発見することにつながりました。



◆ 決定すること

【第2学年 理科 単元名:化学変化と原子・分子】

これまで学習したことをもとに、ある化学変化の起こる仕組みについて仮説を考え、その仮説に対する検証計画を立て、実際に一人一人実験を行い、その結果をもとに振り返る取組を行いました。この一連の取組を行うにあたっては、探究シートを活用しています。この探究シートは、仮説の立証に向けて、次にどのような取組をしたらよいか、確認できる仕組みとなっています。実験結果や他者との意見交換を踏まえて、計画を少しずつ修正することにつながりました。またタブレット端末で、実験した様子を動画で記録し、実験の見直し等に活用しました。



◆ 発見すること

【第3学年 国語科 単元名:書き初めを書こう】

生徒には毎時間、作品を写真に撮って振り返りをさせています。振り返りにはGoogleスライドを活用し、時系列にまとめています。写真を撮り、記録を蓄積することで自分の作品を客観的に見ることができたり、以前の作品と比較したりすることができるので、振り返りが充実しました。

生徒はお手本や授業で習ったポイント、自分の過去の作品と比較しながら具体的な箇所を挙げて改善点を指摘し、次回の課題を見出しています。また、字のバランスや止め、はねなど、改善された点が明確に把握でき、学習意欲の向上につながりました。

12月 11日 課題:志を遂げる

【本時の作品】

今回は、中心線と字のバランスを特に意識して書くことができた。

止め、はね、はらいなどの筆の動きなどを意識したり、一画一画のつながりを意識したりして書くことができた。



【振り返り】 今回は、字のバランスと一画一画のつながり、筆の動かし方などを意識して書くことができた。「志」の下の部分の間隔や、「遂」の「し」の部分の形や字全体の大きさのバランスが悪いので、次回は、字全体の大きさやバランスを意識して書けるようにしたい。

◆ 対話すること

【第1学年 国語科 単元名:話題や展開を捉えて話し合おう～グループ・ディスカッションをする～】

生徒は日常生活への課題に対し、意見と根拠を明確にしながらグループ・ディスカッションに取り組みました。班員一人一人に司会役・他の意見に対する同意役・反論役・確認役・質問役の五つの役割を意識して話し合い活動を進めました。話し合い活動を行うに当たっては、話題や展開を捉えて話し合いに挑むだけではなく、どのような発言をすれば話し合いが円滑に進行していくのかを考えました。話し合いを行う際、メモや記録を取るだけではなく、周りの人の意見が可視化されるよう付箋を用い、意見の分類や融合を行うことで、他人の意見をさらに深めて聞く様子や、全体発表をとおして自分たちに合った解決策を見出すことにつながりました。



◆ 発見すること

【第1学年 国語科 単元名:詩の世界】

詩の学習の探究の段階において「自分の気にいった詩」の題材を基に、詩を分析する人、詩を創作する人等、自分なりのアプローチの仕方で詩についての学びを深める授業を行いました。この授業では他者が作成した詩を参考にすることができるよう、オンラインで共同編集できるアプリを活用しました。情報共有する時間を短縮し、自分自身の詩を考察する時間を確保することで、充実した深い学びにつなげることができました。他者の意見等を参考にする取組を充実させることで、生徒の気付きのきっかけがでたり、思考をさらに広げたりすることにつながりました。



小学校の実践事例

◆ 発見すること

【第5学年 理科 単元名:物のとけ方】

児童は長い試験管を使って、食塩の粒が溶けていく様子を観察しました。食塩の粒が糸状の尾を引きながら落ちていき、次第に小さくなり、溶けて見えなくなるという非日常的な事象と出会うことで、「物が水に溶けるということ」に対して、児童は興味・関心をもち、意欲的に学習に参加することができました。

さらに、観察・実験を振り返り、それらの共通点や事前・事後での変化に注目することで、そこから生まれた児童の「疑問」や「気付き」を生かしながら、学級みんなで追究したい学習課題を発見することにつながりました。



◆ 発見すること

【第4学年 社会科 単元名:水はどこから】

水道から出てくる水がどこからきているのか、学習を進めていく中で、他者の考えやこれまでの学習内容とのつながりから、児童は多くのことに気付いていました。その「気付き=発見」と捉え、学習をしていく中で新たなことを発見したり、友達の発言から良い考えを見つけたりした際に、その気付きを「いいね！カード」に記録しました。授業中、いつでも何枚でも自由に書くことができ、それをノートに貼っていくことで、自分の気付き(発見)が視覚化され、以後の学習に生かそうとする姿勢につながりました。



◆ 表現すること

【第6学年 総合的な学習の時間 単元名:ふるさと府中と菊づくり】

6月中旬から「福助菊づくり」を始めます。地域ゲストティチャー(府中市愛菊会所属)の指導・支援を受け、7月頃に「定植(鉢への植え替え)」、9月頃に「芽欠き(菊花のつぼみを1つだけ残す)」、10月頃に「輪台掛け(大きく育つ菊花を台で支える)」、「大國魂神社 菊花展への出品」という体験を行っています。菊づくりの体験学習と関連した、郷土府中や日本の伝統である菊等について調べ学習を進め、次年度体験する5年生向けの内容を考えてプレゼン資料を作成しました。発表会では、タブレット端末を活用して専門用語や写真画像を説明し、「来年は任せますよ！」という言葉で、伝統を引き継ぎました。



◆ 表現すること

【第5学年 社会科 単元名:工業生産とわたしたちのくらし】

農業や水産業、工業などの産業が自分たちの生活とどのように関わっているかに着目しながら学習を進めました。単元末には今までの学習を振り返り、自分の見方・考え方の変容や分かったことなどを自分の言葉で表現する(まとめる)活動に取り組みました。タブレット端末に学習の記録や発表に向けてまとめた資料が記録されるので、いつでも見返せるようになり、単元間の学びの連続性を考えたり、比較して考えを深めたりすることにつながりました。



◆ 対話すること

【第5学年 国語科 単元名:どちらを選びますか】

「グループで旅行に行くなら海と山、どちらがよいか。」児童は2つの異なる立場から、意見を述べ合ったことをホワイトボードに記述し、一つの考えにまとめ上げる学習に取り組みました。話し合う際には、質問し合うことで、互いの考えの違いを明確にすることができます。また、どちらの考えに説得力があるかということを話し合いの視点にしながら、互いの考え方の良いところや問題点を比べ、より分かりやすい説明をすることにつながりました。また、この学習とおして学んだ対話の仕方を、他教科の学習や学級会での話し合いに生かす姿が多く見られるようになりました。



◆ 対話すること

【第6学年 社会科 単元名:天皇を中心とした政治】

天皇が政治の中心であった時代について、様々な資料を調べて気付いたことや疑問に思ったことを、一人一人がノートに書き溜めていく活動を行いました。書き溜めた気付きや疑問は、ホワイトボードや黒板に大きく記述することで全体に共有したり、グループで話し合う際の材料にしたりしました。学習を進めていく中で出てきた新たな気付きや疑問等を相互に伝え合うことをとおして、これまでの学習とのつながりに着目するなど、学びを深めることにつながりました。



◆ 対話すること

【第1学年 生活科 単元名:むかしあそびをしよう】

10月中旬に地域の四谷清流会の方々を招聘し、昔遊びを教えていただけ取組を実施しました。1年生は地域の方々との交流をとおして、昔遊びの楽しさや難しさに気付きました。

近隣保育園の園児との交流会のために、教わった昔遊びの中からどれを紹介するかを各グループで相談しました。園児との交流では、それぞれの児童がお兄さん、お姉さんとなり、やさしく丁寧に教えてあげる様子がたくさん見られました。3学期にはさらに近隣幼稚園の園児も含めて本校を紹介する交流会を実施し、昔遊びを行う際に、より分かりやすい言葉で、身振り手振りを交えてコツを教える姿が見られるようになりました。



◆ 決定すること

【第1学年 生活科 単元名:たのしい あき いっぱい】

これまでに取り組んできた「自然遊び」の経験を生かして、みんなで楽しめる遊びを考え、意見を出し合いました。

意図的に相手意識(誰と)や目的意識(何のために)をもたせることで、どんぐりや松ぼっくりなどの秋の自然を使って試作を重ねながら、どのような遊びならできるかそれぞれに考えさせ、見通しをもたせました。自分たちで遊びの内容を考察し、決定したことを踏まえて準備を進め、途中で作品を修正したり、作品を楽しみながら学習したりすることにつながりました。

